

S 17 加齢医学本試問 (4 回生以上) <平成 16 年 3 月 19 日実施>

問題 1. 72 歳、女性、左側腹部から下腹部にかけての疼痛と血便、下痢を主訴として来院した。疼痛は来院 3 時間前に排便時に突然発症し、最近 4 日間の便秘がある。左下腹部と臍周辺に軽度の圧痛があり、腸雑音は軽度亢進していた。

(1) 鑑別診断は何か

(2) 診断を確定するのに必要な検査と、各鑑別診断で予想される所見は何か

問題 2. 骨粗鬆症治療について骨代謝マーカーの利用法に言及しながら、簡単に述べなさい。

問題 3. アルツハイマー型痴呆症の診断基準について知るところを述べなさい。

問題 4. 老年者の失神の原因について、知るところを述べなさい。

問題 5. 寝たきりの病態と合併症について知るところを記せ。

問題 6. 介護保険制度について基本理念と要介護認定過程について知るところを述べなさい。

問題7. 老年者の動脈硬化、高脂血症管理について答えなさい。

粥状動脈硬化は、コレステロールの沈着のため、血管壁が肥厚する病態である。心筋梗塞は、粥腫が血管内腔に破裂することが引き金になり、破裂部に血栓が形成されることによる冠動脈の急性閉塞が原因と考えられている。是正可能な危険因子としては、高血圧や高脂血症などが知られている。高コレステロール治療薬としては最近ではスタチンが第一選択薬として用いられ、大規模スタディで30-40%の予防効果が認められている。高齢者でもコレステロール管理の重要性が指摘されつつある。

- (1) 高齢者でのコレステロール管理法について、絶対リスク、相対リスク、全身状態と言う用語を用いて、若年者における管理法と比較しながら論ぜよ。
- (2) ‘大規模スタディで30-40%の予防効果’とはどういうことか。スタディの方法を含み、具体的に説明せよ。